

## 『みどりの保育園 園外学習』

令和5年6月20日(火)、山下組のグループ企業である株式会社グリーン・ライフみどりの保育園のそら組(5歳児)21名と保護者26名が、園外学習の一環として、遠野市土淵町の国有林の二枚橋沢林道新設工事現場にいらっしゃいました。



現地は、恩徳国有林の森林整備のために必要な林道を作設している箇所で、施工会社は株式会社山下組です。当日は、よく晴れ、みどりの保育園のスタッフ・山下組のスタッフも含めて総勢70名が工事現場の見学を行いました。

森林管理署からは、伐採した木材を運搬するために必要な林道の作設についてや、木材の利用方法について簡単に説明しました。伐採した木材から何が出来るのか園児に聞いたところ、「テーブル」「いえ」など元気よく返事が返ってきました。



安全対策のため仮設の柵を設置しました

山下組によるチェーンソーによる伐倒の実演では、「すごいね!」「本当に倒れた!」と園児たちから大きな歓声があがりました。次に、高性能林業機械であるザウルスロボで伐倒木の玉切り、最後にバックホウで法面の掘削が実演されました。ドローンによる写真撮影も行われ、「こっちきて〜!」と園児たちはドローンに夢中になっていました。

最後の質問タイムでは、「(この)工事現場には(町中の道路工事と違って)どうして木が生えてるの?」や「細い木からは、どうやってテーブルを作るのか?」「(この現場には)水(沢)があるけど、どうするんですか?」など、実務担当者にはない素直な目線からの質問が多く出ました。

帰ってからも『うんこドリル』を保護者と一緒に読んで楽しく学習したと、保育園から感想が届きました。今回の園外学習で、森や林道に興味をもつていただき、就職するようになれば将来現場で会うこともあるかも知れません。今後の環境教育でも、興味を引きやすい、わかりやすい話作りを目指していきたいと思います。また、保護者の方も、子供の学習意欲に沿う形で森林に対する理解を深めていただければ、環境教育の効果は倍増していくのかも知れません。

6月23日の『日刊岩手建設工業新聞』に掲載されましたので、添付します。



「うんこドリル」がお気に入り

岩手南部森林管理署遠野支署 梶本 愛



# 園児たちが山の仕事を見学

## 山下組施工の 森林管理の大切さに興味 林道新設工事

（株）山下組（花巻市、菅原陽一代表取締役社長）が遠野市内で進めている林道新設工事の現場を、保育園児たちが見学した。園児たちはチェーンソーでの伐採作業や、重機を使つての集材などの様子を

見学し、森林管理の大切さを学んでいた。この見学会は、同社のグループ会社である（株）グリーン・ライフが運営する「みどりの保育園」（花巻市、高木宏子園長）の園外学習

の一環として行われた。20日に同園の5歳児と保護者ら約60人が、遠野市土淵町栃内恩徳国有林内の二枚橋沢林道新設工事の現場を見学した。

園児たちは、チェーンソーを使つて直径約40センチの広葉樹を伐倒する作業を見学。木を切り倒す作業を固唾をのんで見守りながら、木が倒れる大きな音に驚いていた。

と枝払い、バックホーを使つての法面掘削などスケールの大きい重機作業や、ドローンでの記念撮影など、建設現場で使われるさまざまな機械に園児も保護者も興味津々。東北森林管理局岩手南部森林管理署遠野支署の梶本愛主任森林整備官（森林育成・ふれあい）は、木の利用方法や伐採した木を運搬するために林道を整備していることなどを園児たちに説明した。

照井悠人くんは「木を切る音がすごく大きくて、びっくりした」と、山の中の仕事に興味を持った様子だった。母親の真理さんは「木から何ができるかを学び、自然の大切さと仕事の大切さを知ってほしい」と話していた。



木の倒れる音に驚く園児たち



林道工事の様子を見学

照井悠人くんは「木

を切る音がすごく大きくて、びっくりした」と、山の中の仕事に興味を持った様子だった。母親の真理さんは「木から何ができるかを学び、自然の大切さと仕事の大切さを知ってほしい」と話していた。

た。

今回の取り組みは、親子が林道新設工事の現場を見学することで、森林の役割や森林資源の循環利用の意義、地域環境の保全などに関心を持つてもらうことを目指して企画したもの。

菅原社長は「建設業の仕事や木の伐採作業を見てもらい、木が多様な用途で使われていることを学び、森林や建設業に興味を持つきっかけとしてほしい」と、自然に親しむ子どもたちを見守っていた。